

氏名(本籍) 天 沼 香(東京都)
 学位の種類 博 士(医学)
 学位授与番号 乙第 1241号
 学位授与日付 平成 12年 3月 15日
 学位授与の要件 学位規則第4条第2項該当
 学位論文題目 高齢者の社会関係・健康観・幸せ感に関する日系カナダ人と日本人との
 比較研究
 審査委員 (主査) 教授 岩 田 弘 敏
 (副査) 教授 清 水 弘 之 教授 犬 塚 貴

論 文 内 容 の 要 旨

わが国における高齢者の介助、介護は伝統的に家族に委ねられてきた。しかしながら現在、少子高齢化、核家族化が進行する日本社会にあっては、家族関係は脆弱・希薄となり、在宅介護より施設介護依存の傾向が強まりつつある。今後は公的介護支援体制を一層、充実させていかななくてはならなくなっている。

このように、「介護」の質量にわたる充実が急務であることは当然ながら、それとともに高齢者が健康で生き生きとした生活を享受するためには、何が必要なのかを考究することは、切実な社会的要請である。

こうした状況をふまえ、申請者らは形質的には日本人でありながら、カナダ社会に適応し、諸々の文化変容を遂げている日系カナダ人の高齢者を対象として、介護に関する問題のみならず、対象者が健康で生き生きと自立した生活を営んでいる本質の一端を明らかにするために、社会医学と歴史人類学の学際的視座をもって実態調査を行った。その実態と比較するために、日本の一部地域でも同様な調査を実施した。

対象と方法

日系カナダ人の対象者は、その集住地域の電話帳から150名を無作為抽出し、調査に同意を得た113名である。対象者個々に面接し、質問用紙に回答してもらうとともにparticipant observationを行った。日本の一部地域としては、岐阜県東白川村および岐阜市とその近郊を選んだ。東白川村の対象者は老健法に基づく検診に集まった高齢者から、地区に偏りなく選んだ100名である。個別に保健推進委員が質問用紙を配布、後日、回収するとともに聞き取り調査を行い、回答が得られたのは95名であった。岐阜市とその近郊在住の対象者は、某女子大学学生の祖父母から選ばれた223名である。質問用紙を配布し、200名から回答を得た。これらの調査は1997年7月から同年10月にかけて行った。

調査項目は、対象者の基本的属性、現時点における諸状況、家族関係、社会関係、健康状態、食生活、住生活等である。

データの集計および分析は、それぞれ Excel, Stat Viewを用い、検定はカイ2乗検定およびt検定で行った。

結果

本調査により次のような結果を得た。

1. 日系カナダ人の高齢者の学歴は、大学卒業者が20%を越すなど、日本人の高齢者に比して有意に高かった(東白川村の高齢者の大学卒の比率は1.1%)。
2. 日系カナダ人の高齢者は、仕事以外に趣味、社交など幅広く生きがいを見いだしていた。これに対して日本人の高齢者では、仕事を生きがいとする率(東白川村 40.2%, 岐阜市23.2%)が高かった(日系カナダ人のそれは9.6%)。

3. 日系カナダ人では高齢者との同居者が、配偶者を除くと低率（既婚の息子0.9%、孫0%等）であったが、日本人では高率（東白川村－既婚の息子36.8%、孫22.1%、岐阜市－既婚の息子35.0%、孫27.6%等）であった。
4. 趣味、スポーツ、その他諸々の会合への参加頻度は、東白川村の高齢者において圧倒的に高かった。
5. 健康観に関しては、自らを健康そのものとする率が日系カナダ人において高率（41.0%）であった。これに対して日本人では低率（東白川村－15.3%、岐阜市－12.9%）であった。
6. 現在の住居の住み心地に関しては、日本人に比して日系カナダ人では大変に満足している率が高く、それは人生における幸せ感と関連していた。
7. 自らが介護を必要とするようになった場合、公的サービスに依存しようと考えている日系カナダ人の高齢者は79.6%であったのに対して、東白川村の高齢者は8.4%、岐阜市周辺の高齢者は16.0%と低率であった。逆に、子供に依存しようとしている日系カナダ人の高齢者は19.5%であったのに対して、東白川村の高齢者では35.8%、岐阜市周辺の高齢者では54.0%であった。

考察

以上の結果から、高齢者が生き生きと健康で自立した生活を営むためには、公的介護サービス体制の整備、生きがいを持つこと、社会との接点を保持すること、社会的ネットワークを構築、維持すること、とりわけ他者との間に緊密な関係を築き、深めること、自ら進んで幸せであろうとすること、楽天的な健康観を持つこと、美味しい食事、快適な住生活を心がけること等が肝要であると推察された。

論文審査の結果の要旨

申請者 天沼 香は、日系カナダ人の高齢者の家族関係、社会関係、健康観、幸せ感、介護に関する意識等についての実態調査を、日本の一部の地域との対比で行い、高齢者が健康で生き生きと自立した生活を享受するために必要な、いくつかの知見を得た。これらは、わが国における高齢者対応に示唆を与えるものであり、老年予防医学上、価値あるものと認める。

[主要論文公表誌]

高齢者の社会関係・健康観・幸せ感に関する日系カナダ人と日本人との比較研究

平成12年年3月 岐阜大医紀 48 (2)